

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400417
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ松柏
所在地	愛媛県八幡浜市松柏甲728-1
自己評価作成日	平成28年10月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>運営理念に沿って家庭的雰囲気の中でゆったりと過ごして頂いている。季節を感じてもらう為に壁面に季節の飾りつけをしたり年数回の外出レクや夕涼み会、クリスマス会等ボランティアの方を活用し楽しみの機会を作っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>玄関を入った所に神棚が設けてあり、通る度に手を合わせる利用者がいる。居間から中庭のテラスに出られるようになっており、ピオラを植えたプランターが配されていた。夏場にはゴーヤやトマト、キュウリを育てて料理に利用している。居間には大きな日めくりのカレンダーがあり、壁には行事の写真や季節の飾り付けをしている。訪問調査時、午前、午後にお茶の時間を設け、ことわざ遊びや今日の新聞から地域話題を話したり、体操を行っていた。トイレの入り口のレールの段差は、改修して改善されていた。 自宅のことを大切に思う利用者には、買い物帰りに自宅に立ち寄ってみる機会を作る等して支援している。趣味の三味線の仲間に来てもらい、演奏会をしてもらうような機会を作り、本人との関係を継続できるよう支援している。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ松柏

(ユニット名) すだち

記入者(管理者)

氏名 山崎奈美

評価完了日 H28年 11月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 施設内に運営理念を掲示して共有している 理念に沿った目標をかかげ実践に努力している	
			(外部評価) 開設時からの理念を居間や事務所に掲示しており、職員間で「ゆっくり・楽しく・いつも一緒に」を合言葉に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 中学校の福祉体験の受け入れ、運動会、地区公民館のバザー 市主催の防火訓練に参加又ホームの夕涼み会にも多くの地域の方が来て頂き、交流をしている	
			(外部評価) 町内会に加入し、回覧板で地域情報を得ている。事業所前にある中学校の福祉体験学習を受け入れている。中学校の運動会の折には、気兼ねなく見学ができるよう出入りしやすい場所にテントを設置してくれている。地区の「食推進委員会」の独居老人にお寿司を届ける取り組みの折には、事業所にもお寿司を届けてくれる。敬老会開催時に保育園児が来てくれて、歌や踊りを見せてくれており、利用者がたいへん喜ばれることから、クリスマス会時にも交流できるよう調整中であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生、高校生の福祉体験の受け入れや夕涼み会等で、認知症を理解して頂いている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 年6回行い婦人会、公民館長、市職員、家族、他事業所が参加 ホームの状況報告、意見交換を行い、出た意見はスタッフ会で話し合いサービス向上に活かしている</p> <p>(外部評価) 会議には、公民館長や婦人会の方、家族代表者1名が参加している。又、市内グループホームと相互参加して情報交換を行っている。会議を避難訓練や夕涼み会と併せて行うこともある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 主に施設長が報告、連絡、相談を行っている。 市主催の研修やグループホーム連絡会への参加又市よりさわやか相談員さんが来所、入居者様と会話されたり気付き等意見を頂いている。</p> <p>(外部評価) 市と包括支援センター担当者が交替で運営推進会議に必ず参加してくれている。さわやか相談員の訪問が月1回あり、気付いたことを教えてくれたり、利用者の話をじっくり聞いてくれる。3ヶ月に1回行われる市内地域密着型サービス事業所連絡会に参加しており、同業者と一緒に勉強したり情報交換を行ったりしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 全員が研修に参加理解しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる又2階階段には転落防止のため取り外し可能な柵を設置 玄関は施錠せずチャイム音が鳴るようにしている</p> <p>(外部評価) 法人内研修時に、身体拘束について勉強している。外に出たい利用者の様子があれば散歩に誘い、しばらく外で過ごし、本人が納得いくように支援している。玄関を開けるとチャイムが鳴る。2階ユニットの階段口には、転落防止用に柵を設置している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 順番に勉強会に参加、言葉使いに気をつけて行動し、あざ等が あった場合は事故報告書にあげ、原因について話し合い虐待 を見過ごさないよう注意している	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修は受け学習している現在活用している入居者様がない為 活用していない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者やユニットリーダーが契約に関わっている 家族が理解できるようゆっくり説明し改定等があれば文章にて送付している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ケアプラン作成時や面会時に家族に要望等の意見を聞きスタッフ会で話し合い対応している。 月1回「日常の様子」として利用者様の様子や健康状態を文書で報告している。 (外部評価) 家族とのやり取りは日誌に記入し、職員間で共有している。 家族には、月1回、手書きの便りと写真を送付している。便りには「健康状態」「活動状況」等の欄を作り、個別で具体的な報告に取り組んでいる。家族会を年1回行っており、半数の参加がある。家族会前には質問等を受けており、それらをもとに説明したり意見交換を行ったりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日の申し送り時や月1回のスタッフ会議で要望や提案を聞き意見交換をしている。 スタッフ会議で出た要望を内容によっては高齢者会議で施設長が意見を出している。	
			(外部評価) 法人内職員が個別に自己評価を行い、個人目標を立てて取り組む仕組みがある。月1回のスタッフ会で出た意見については、「まずやってみる」ことに取り組んでいる。職員からの意見で業務を行う時間を変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年1度能力開発カードを作成し目表を掲げ向上心を持って働けるようになっており年1回異動希望調査を行っている。又中間見直しや年度末には評価を行っており個々の努力や実績には目を向けていただいている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修を受ける機会を確保、研修後は施設内の勉強会で報告しスタッフ全員が活かせるよう努めている	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営推進会議や他事業所の行事等を通じ交流の機会を作り情報交換を行っている。 法人内での勉強会、相互研修の活動を通じてサービス質の向上に努めている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前に施設長が面会し生活の状態を把握又入居に関し、不安や要望に耳を傾けながら本人の安心を確保する為の環境作りに努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時や面会時に要望や困っている事を聞き、スタッフ間で話し合いを行い共有できるようにしている。よりよい関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前に様子や状態を見て、本人やご家族から話を聞いた上で受け入れている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 第2の我が家と思い、安心した生活を送ってもらえるよう関わりをもちながら支えあう関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族来所時に本人の状態や様子を伝えている。暮らしの出来事や、気付きの情報共有に努め本人とご家族の絆を大切に共に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や親戚の方など気兼ねする事なく、来て頂けるような雰囲気づくりに努めている。 (外部評価) 自宅のことを大切に思う利用者には、買い物帰りに自宅に立ち寄ってみる機会を作る等して支援している。家族と一緒に自宅に戻り、食事するような方もある。趣味の三味線の仲間に来てもらい、演奏会をしてもらおうような機会を作り、本人との関係を継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係の把握に努め仲の良い利用者同士隣の席にしたり耳の聞こえにくい利用者様にはスタッフが配慮し孤立しない様支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用(契約)が終了するとほとんど関わりがなくなるが、ご家族に出会うと声がけし近況など聞いている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話をし本人の希望を把握、本人に沿った支援に努めている又 意思表示の困難な方はご家族と話し合い本人にとってより良い生活が送れるよう努めている。	
			(外部評価) センター方式をもとにしたアセスメントシートに沿って情報を集め、利用者の好みや意向の把握に取り組んでおり、個々の出来る事、得意な事を行えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のサマリーや入居情報又ご本人様と関わって行く中でこれまでの生活環境、暮らし等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェック等心身共に現状の把握に努め残存機能を引き出せるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			3～6ヶ月に1回ケアプラン見直しのためのカンファレンスを実施し又月1回担当者がモニタリングをしている。更新前に本人、家族より要望を聞いたり必要な関係者と話し合い本人の現状に沿った介護計画を作成している	
			(外部評価)	
			家族の要望や健康状態等を踏まえて、ケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。利用者個別の介護日誌に計画内容を記入し、毎日モニタリングを行っている。3ヶ月ごとに評価して見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々、個別に介護記録に記入し、変化や気づきがあれば朝・夕の申し送り時にスタッフに伝え、情報を共有し質の向上を実践している。また、記録を元に介護計画の見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			受診等ご家族が通院介助できない時は通院介助を行う等、その時に合ったサービスを提供している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			防災訓練では消防署の方に来て頂いたり、地域の行事に参加したりホームのイベントにはボランティアの方や婦人会の方に来て頂いたりと交流を図り、安全で楽しい生活が送れるよう支援している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が病院なので適切な医療は受けられている。ホーム専属のDr.が定期的に往診、また、連携ナースに来て頂いてる。急変時等、24時間対応して頂いている	
			(外部評価) 利用者は全員、協力医が主治医となっている。毎日、主治医が往診に来ているため、職員は、気になること等があれば直接相談をしている。家族から「ADLが落ちたのではないかと相談があった時には、主治医と直接話す場を持った。訪問看護ステーション看護師と協力医の看護師が連携して週1回訪問がある。専門医受診は家族が付き添うが、都合によっては職員が介護タクシーを利用して同行している。必要に応じて歯科の往診も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 入居者様の体調変化があればナースに伝え対応してもらっている。また、毎朝、入居者様の様子をDr.報告にてFAXし、報告している。定期的に医療連携ナースに来て頂いている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体の病院へ入院の場合、連携ナース、医療情報課より情報をもらっている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合、Dr.、家族、施設長を交えて今後についての話し合いを行っている。終末期についてはアンケートをとっている。施設内で出来る事を家族に伝えており、状態変化ごとに家族と話し合うようにしている	
			(外部評価) 看取り支援については、入居時と状態変化時に「意向確認書」で確認を行っている。9月に看取りを支援した際には、「チューブは嫌」という本人の思いのもと、家族、主治医、看護師、医療連携看護師と方針を共有して支援した。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備え、応急処置の研修に行っているが、いざという時に慌てていると思うので勉強会を重ねて、実践力を身につけるようにしていきたい	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回避難訓練を行っている。地域の方にも協力してもらい、協力体制を築いている。また、訓練後には消防の方からアドバイスを頂いている。防災時の対応マニュアルを作成したり、地域の防災訓練にも参加している (外部評価) 5月の避難訓練時には、職員が利用者役になり、シーツを使って外階段から利用者を避難させる訓練を行った。10月には、1階ユニットで浴室の窓から避難する訓練を行ったが、利用者の状態により、避難誘導に課題が残ったようだ。近所の方に避難訓練を手伝ってもらったことがあり、「何をしていたかわからない」「声が聞こえない」と意見があった。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心を気付けないよう一人一人の尊重や優しい声掛けで対応するよう気をつけている。また、オムツ交換や更衣、トイレ時は必ずドアを閉めるようにしている (外部評価) 法人の接遇委員会で得た情報を共有している。トイレ誘導はそっと声をかけ行っており、トイレの戸は閉め忘れないように気をつけている。利用者の呼び方については、家族の呼び方に合わせる等、「馴染みの呼び方」にしている。職員は親しみのある言葉がけに努めているが、利用者や家族の立場から視ると配慮が必要と感じるような場面が見られる。	さらに、職員の利用者への言葉かけや対応については、事業所内でも定期的に振り返ったり、点検するような機会を作ってはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) おやつ時等、好きなお菓子を選んで頂く等自己決定できるように支援している。本人の希望にそえるよう心掛けているが、無理な場合は上手な声かけを行うよう努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合った支援を心掛けているが、スタッフ不足によりスタッフ側のペースになる事もある。ゆったり、慌てさせないよう対応している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1度美容師が訪問し、散髪また、入浴時には洋服を選んでもらったり、離床時にも髪を整えたりしている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 高齢化により準備や片づけを行うのが難しくなっている。一人一人の好みの物や旬の食材を取り入れたり、誕生日会は希望されたメニューを提供、食事を楽しむよう支援している (外部評価) 夕食の主菜は業者から届く。他の食材は配達してもらっている。朝食にパン食を好む方がおり、週2~3回採り入れている。メニューや利用者に合わせてミキサー、きざみ、とろみにする等して対応している。誕生日には利用者の好きなメニューでお祝いしている。天気の良い日には、テラスや玄関前で昼食を楽しむことがある。今年は中庭でゴーヤを育て、みなでゴーヤ茶を飲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、食事量のチェック、一人一人把握して、水分摂取、10時、15時にお茶の時間を設けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、夜間、義歯を外して頂くようにしているが、中には昔ながらの習慣で義歯を入れたまま寝られる方もいる。本人の力に応じて声かけをしたり、一部介助をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表の記入を行い、一人一人の排泄パターンを把握している。声かけを行い、自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価)	
			利用者が必要時に職員を呼べるように、トイレ内にブザーを付けている。又、夜間居室でポータブルトイレを使用する方については、必要時に職員を呼べるように近くに鈴を用意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			腹部のマッサージを取り入れている。また、飲食物の工夫を行っている。運動については難しく、薬や浣腸に頼る事も多い。	
			(外部評価)	
			週に2~3回程度は、入浴しているが、安全面からスタッフの人数が多い昼間に入って頂いている。希望に沿うのは難しい。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			利用者個々に午前か午後か希望を聞き、入浴を支援している。利用者の中には希望でシャワー浴のみ行うような方もいる。入浴したくない利用者は、気分によるということがわかり、時間を置いて何度か声をかけ支援している。	
			(外部評価)	
			高齢の入居者が多いため、無理をせず、休みたい時に休んで頂いている。安心して眠れるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			高齢の入居者が多いため、無理をせず、休みたい時に休んで頂いている。安心して眠れるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情を個別に介護記録にファイルしている。薬の変更があれば、日誌に記録し、情報を共有してる。また、症状の変化があれば、Dr.に報告している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみやお茶パック詰め、テーブル拭き等一人一人に合った役割を持って過ごしている。定期的に外出し、気分転換の支援をしている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) スタッフ不足や入居者の重度化により難しくなっている。年に数回、外出レクを実施しているが、全員参加も難しい	日常的にちょっと外に出て過ごせるような機会を増やせるよう、支援に工夫してみしてほしい。支援の協力者を増やしたり、近くに気軽に行けるような場所を開拓する等して取り組みをすすめてほしい。
			(外部評価) 月1回、外出レクリエーションを計画し、ドライブや花見、外食等を支援している。近所を散歩したりおやつを買いに出かけたり、気候の良い時期にはテラスに出てひなたぼっこをしたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にホームで管理している。外出時にはスタッフが立替えている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話をかけ、難聴の方にはスタッフが代わりに伝えている。手紙やハガキはスタッフが預かりポストへ投函している。代筆もしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室、廊下、リビング等、季節感のある作品を飾っている。温度、湿度の調整、換気等も行い、居心地よく過ごせる工夫を行っている。	
			(外部評価) 玄関を入った所に神棚が設けてあり、通る度に手を合わせる利用者がいる。居間から中庭のテラスに出られるようになっており、ピオラを植えたプランターが配されていた。夏場にはゴーヤやトマト、キュウリを育てて料理に利用している。居間には大きな日めくりのカレンダーがあり、壁には行事の写真や季節の飾り付けをしている。訪問調査時、午前、午後にお茶の時間を設け、ことわざ遊びや今日の新聞から地域話題を話したり、体操を行っていた。トイレの入口のレールの段差は、改修して改善されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファがあり、廊下には長椅子を設置し、気の合った入居者同士でくつろげる場所がある。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の使用していた家具や小物、家族の写真、本人の作った作品を置き、安心して生活できるよう工夫している。	
			(外部評価) ベッド、ダンスを備え付けている。各居室入口には、暖簾を掛けてプライバシーに配慮をしていた。窓は障子を入れており、和の雰囲気ややわらかな光が入る。テレビや馴染みのダンス、衣装ケース、衣紋掛けを持ち込んでいたり、誕生日の色紙や折り紙を飾っていたりする居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、リビング、トイレ全てに手すりがあり、トイレ、浴室が分かるよう表示、居室の入口には顔写真を貼り、また、自分の作品も貼りわかりやすくしている。入居者の状態により手引き歩行も行っている。	
			(外部評価)	